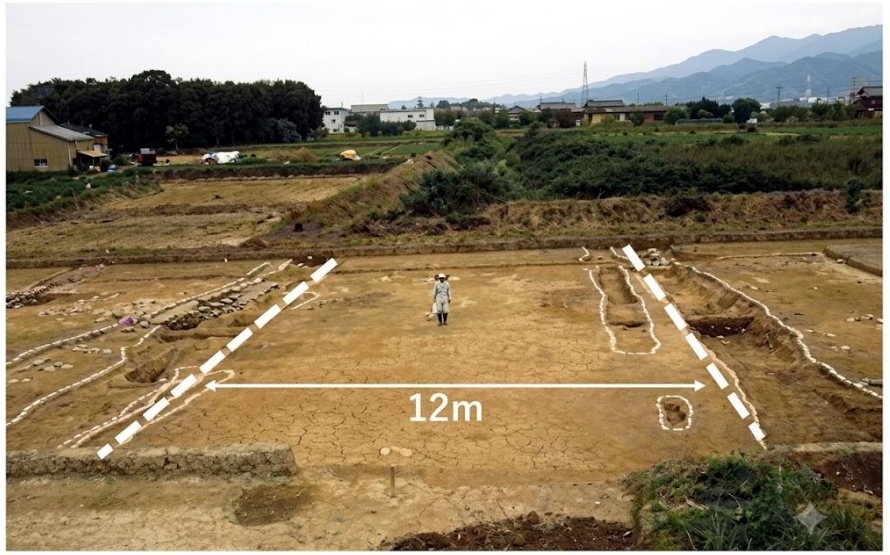
甲良町4500年の歴史をたどる〔続〕

～甲良から日本の歴史が見える～





尼子西遺跡の東山道

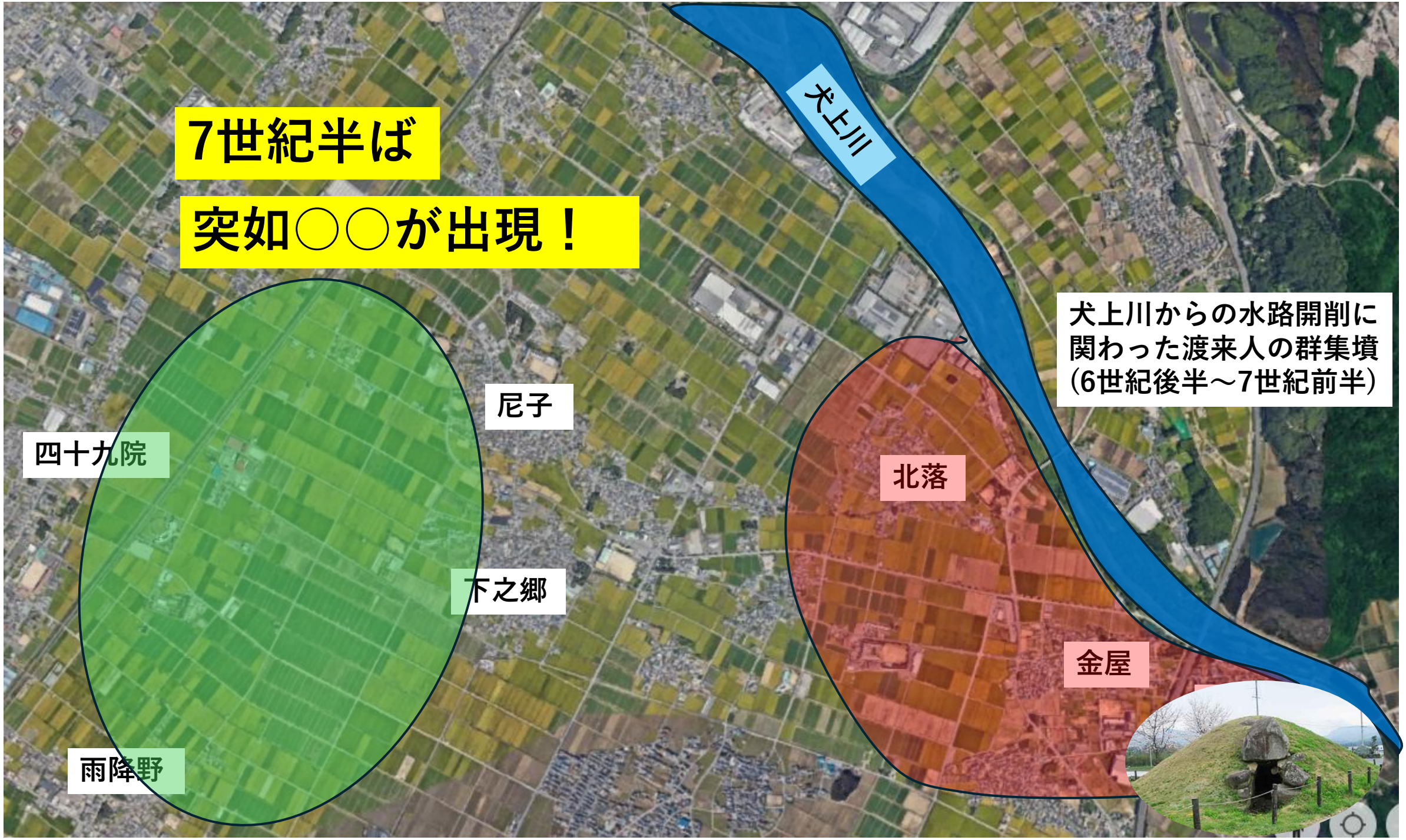


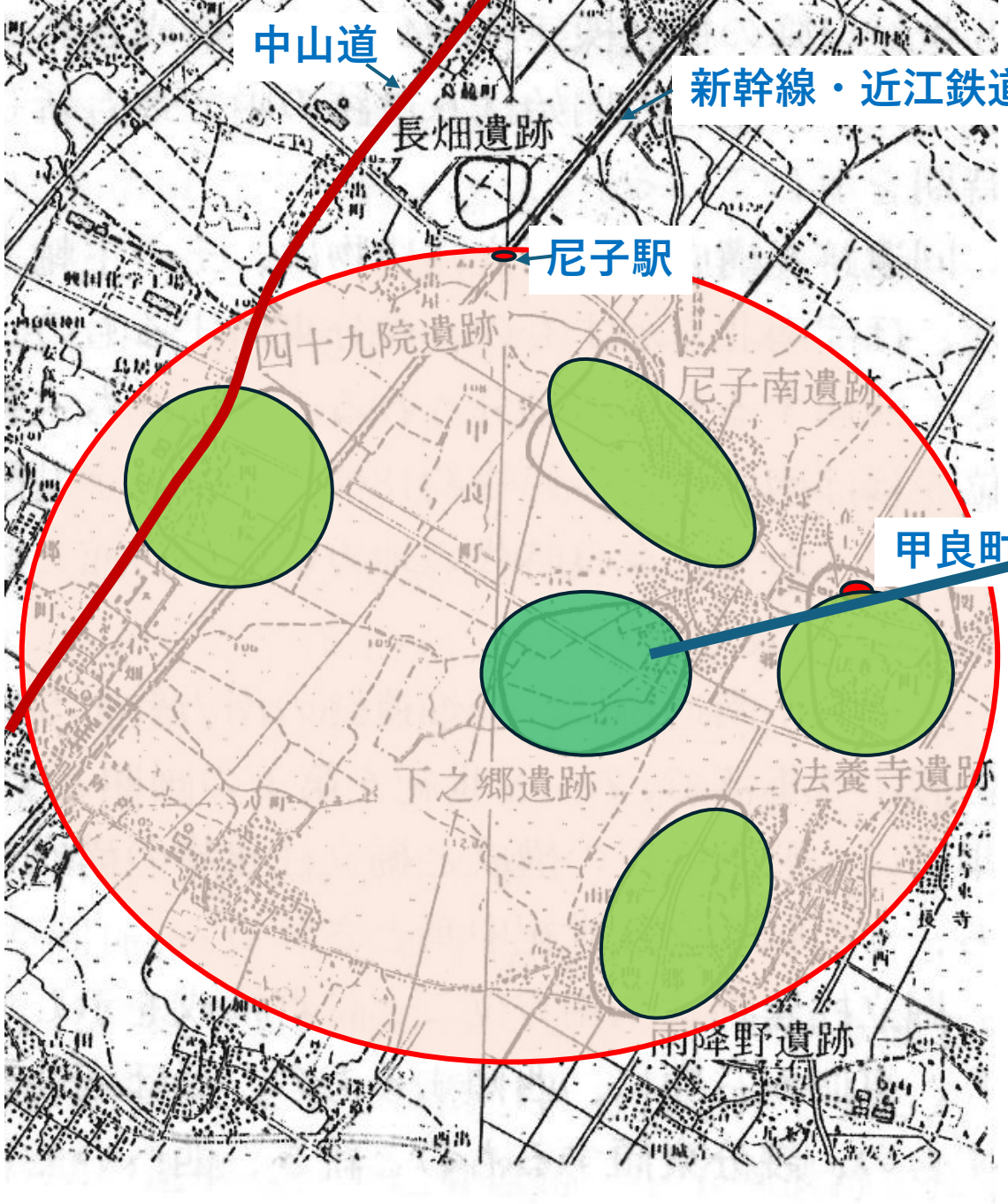
甲良町　『ふるさとプロジェクト』メンバー
上野　芳樹

6世紀後半から7世紀前半にかけて
在地豪族と渡来人の技術力で扇状地が開発されていく



その後、甲良の地はどうなった？


7世紀半ば
突如○○が出現！
犬上川
犬上川からの水路開削に
関わった渡来人の群集墳
（6世紀後半～7世紀前半）
尼子
四十九院
北落
下之郷
金屋
雨降野



犬上川左岸扇状地上集落遺跡分布図

半径1.5㎞の円内に、7世紀半ばから8世紀にかけての集落遺跡が５つも所在

下之郷遺跡

南北500m・東西約300mに
竪穴住居70棟・掘立柱建物24棟

調査した遺構は一部に過ぎない

下之郷遺跡を中央の集村として
その周囲に四十九院・尼子南・法養寺
・雨降野の散村があったと考えられる

下之郷遺跡の発掘





竪穴住居と水路の跡



竪穴住居・掘立柱住居群

ＡＩによる復元イメージ図



７世紀半ば、突如現れた竪穴住居群

ＡＩによる復元イメージ図



８世紀　竪穴住居→掘立柱建物　寺院も出現

Q:なぜ、突如このような一大住居群が現れたのでしょうか？

7世紀半ば、歴史上の大事件と言えば……？

645年



なかのおおえのおうじ　なかとみのかまたり　そ　が　いるか　いっし
中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我入鹿を殺害した乙巳の変

（天智天皇）　（藤原鎌足）

↓

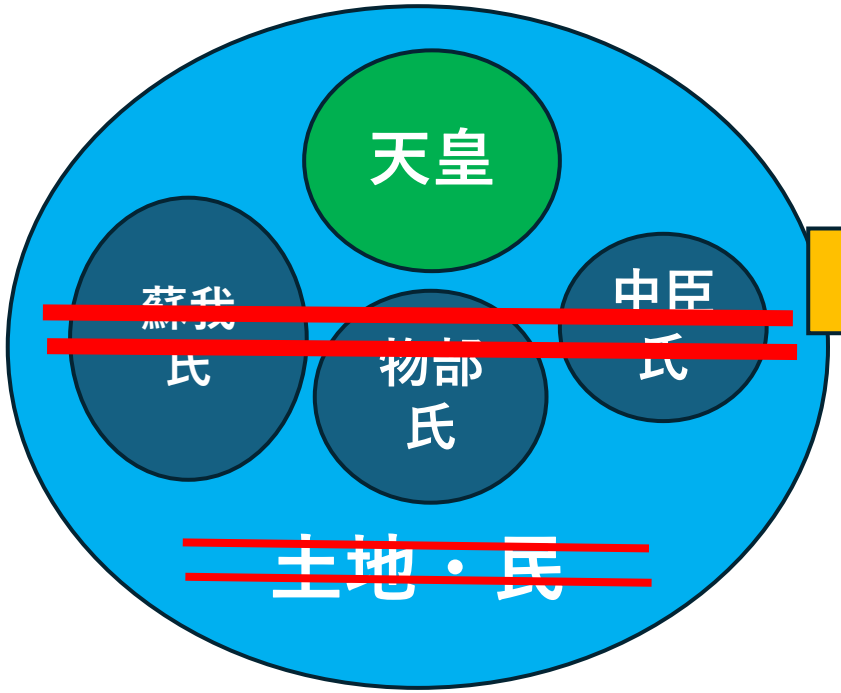
大化の改新

政治の仕組みが根本的に変わる

ビフォー

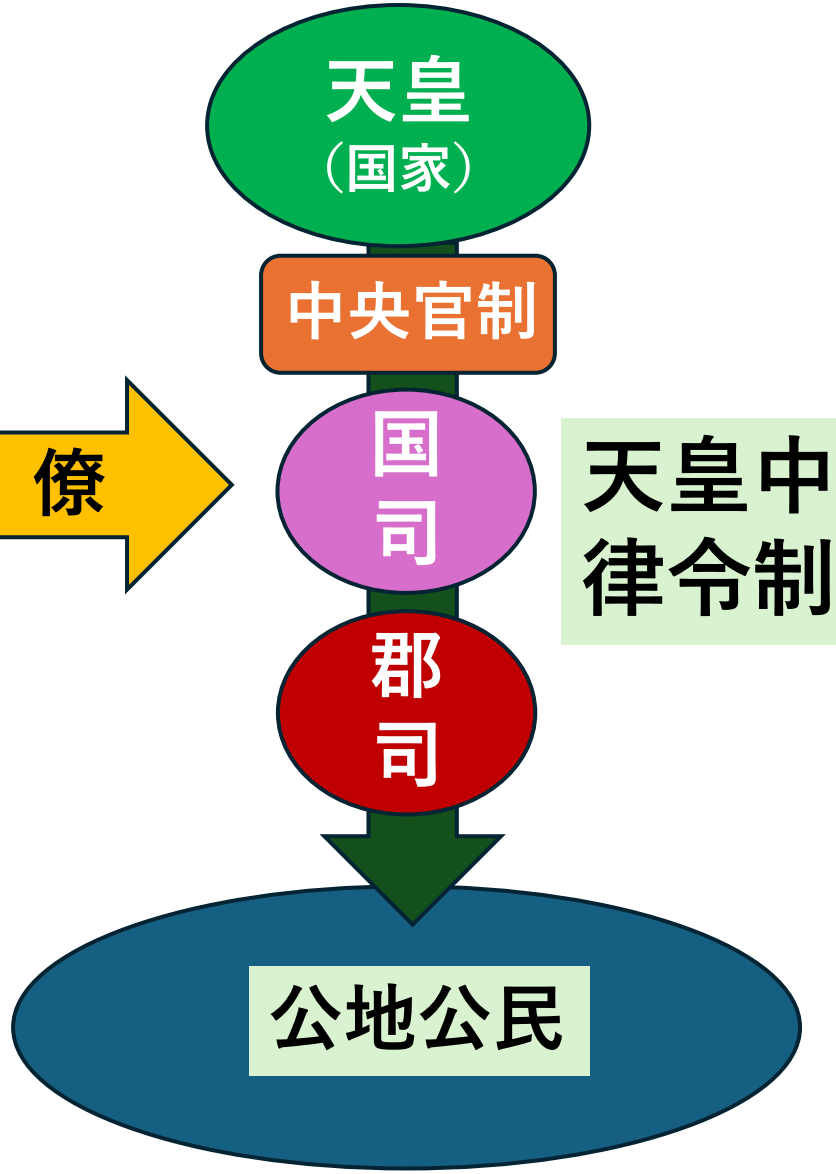
アフター

ヤマト朝廷



大化改新

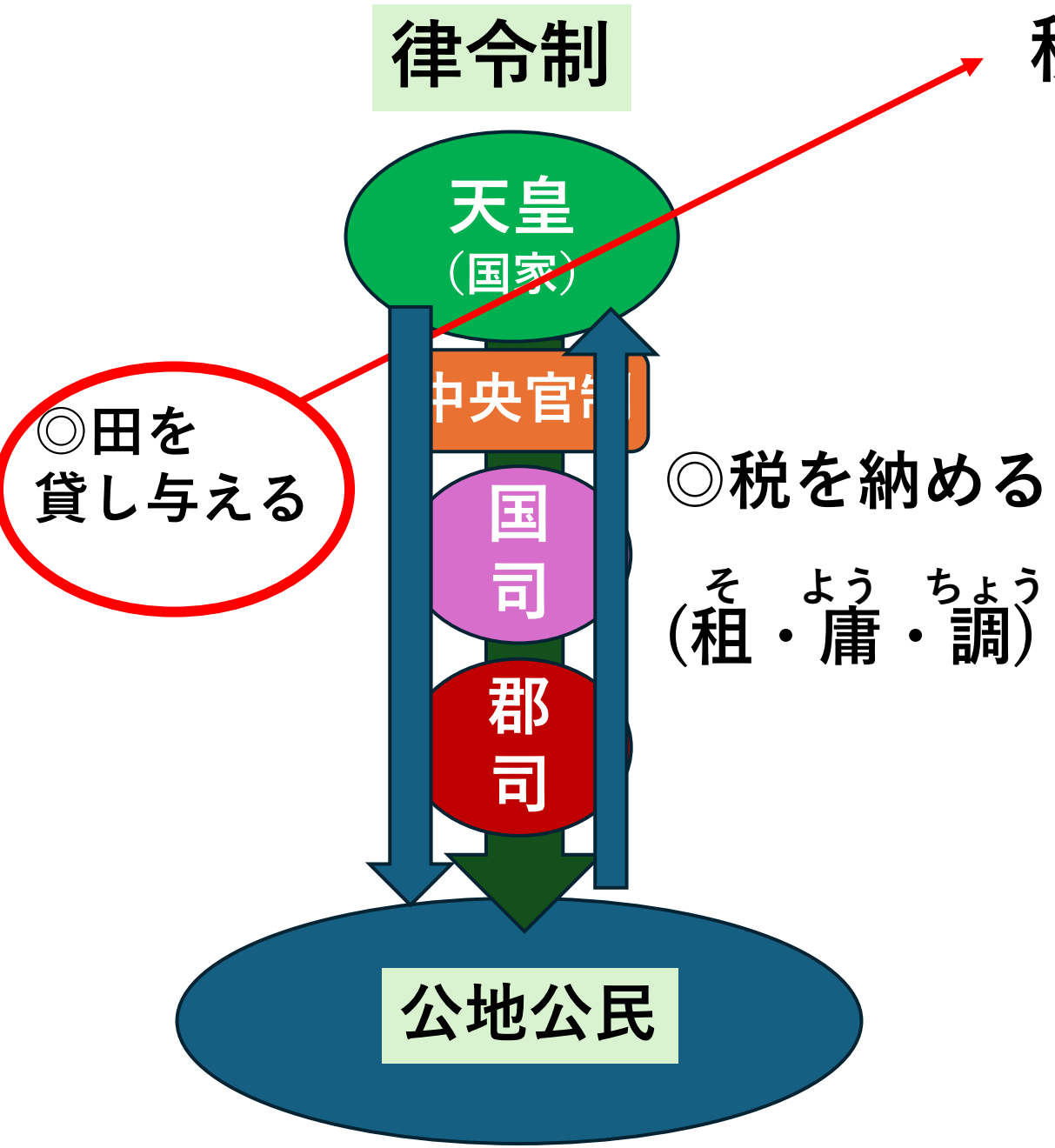
官　僚



天皇中心の律令制国家

蘇我氏などの豪族による集団統治

土地は各豪族が私有



税収の基礎となる田の確保は
喫緊の最重要課題

国家の一大プロジェクト
としての新田開発

そのモデルの一つが「甲良」

開発の中核集落が「下之郷」

「下之郷」の古名は

「根田村(こんでんむら)」

墾田

大量の入植者はどこから来た？

663年　「白村江（はくすきのえ）の戦い」



唐・新羅連合軍と百済・倭が戦った
「白村江の戦い」で百済は滅亡
百済から大量の亡命者・難民が出た。

『日本書紀』
天智天皇四年二月条
「復以百済百姓男女四百余人、居于近江国神前郡。」
(百済の男女400人余りを神埼郡に住まわせた)

天智天皇五年
是歳、遷百濟男女二千餘人於東國。
(百済の男女2000人余りを東国に移した)

天智天皇八年条
「又以佐平余自信・佐平鬼室集斯等、男女七百余人、遷居近江国蒲生郡。」
(鬼室集斯（きしつしゅうし）ら男女700人余りを蒲生郡に住まわせた)

甲良の扇状地開拓村は
百済から逃れてきた人々の受け入れ先
にもなっていたのではないか

8世紀

672年　壬申の乱（天智天皇の子大友皇子と大海人皇子の戦い）

701年　天武天皇の時代　**日本初の法典「大宝律令」が完成**

710年　奈良平城京に遷都（唐の都、長安がモデル）



長屋王（ながやのおう）の邸宅

「長屋王（ながやのおう）」をご存じですか？

奈良時代前半に政権のトップとして活躍した悲劇の最高権力者

天武天皇の孫で次期天皇候補

しかし、権力の拡大を目論む藤原四兄弟(鎌足の孫)と激しく対立。729年に謀反の疑いをかけられ、一族ともに自害へと追い込まれた（長屋王の変）。



昭和61年（1986）から平成元年（1989）にかけて行われた長屋王邸宅跡の発掘調査で大量の木簡が出土

その木簡群の中に……！

米俵に付けられた荷札



犬上郡　甲良里　前子



位戸米六斗



犬上郡瓦原郷



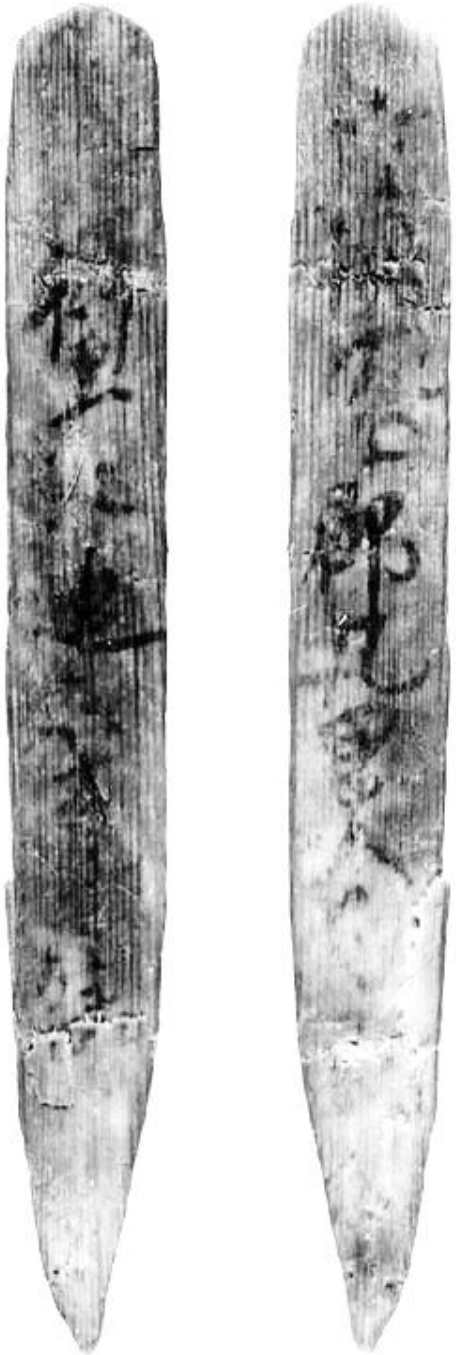
犬上郡甲良里子部伊知米六斗



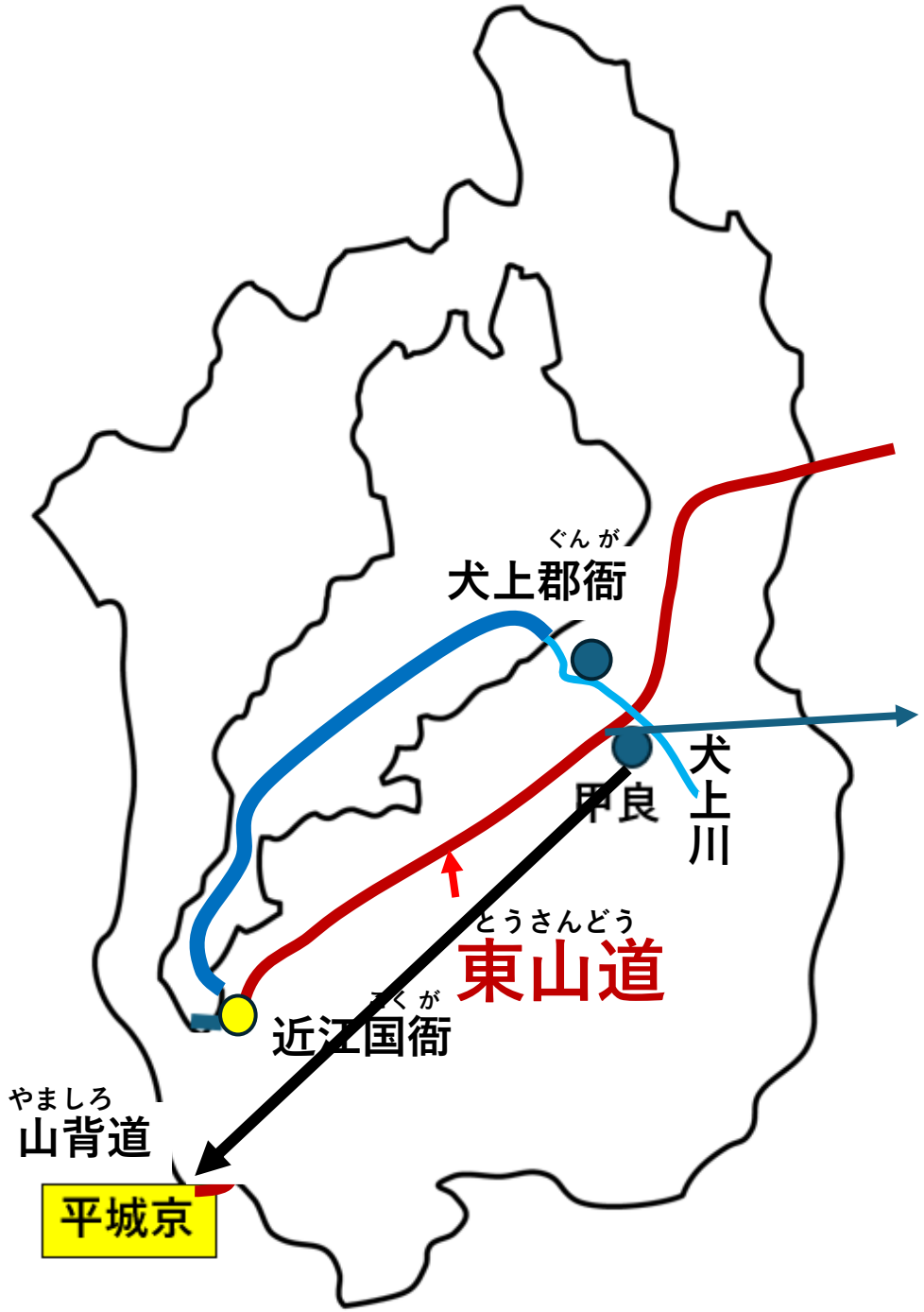
川原郷



犬上郡瓦里川背舎人高市米六斗



近江国犬上郡瓦里人

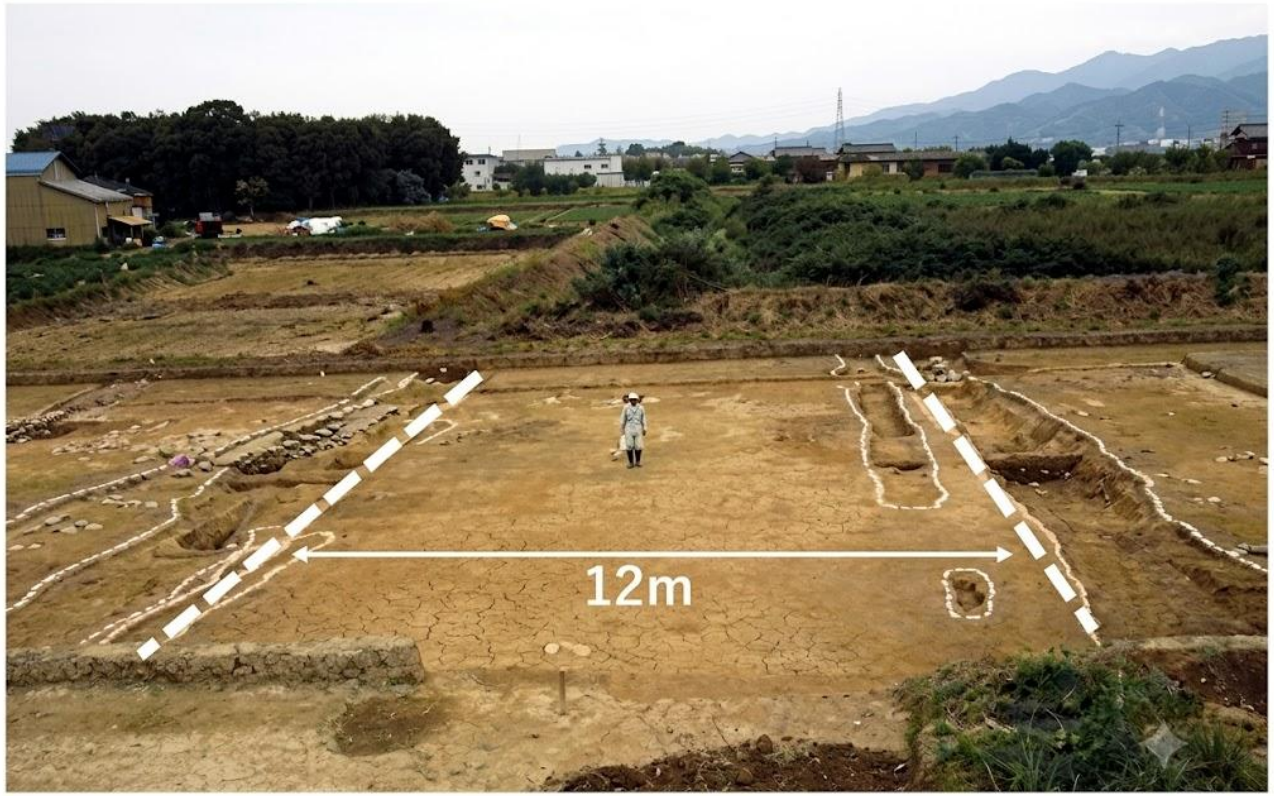


7世紀後半に開拓が始まった甲良の地

8世紀初めには都まで米が送られていた！

どんなルートで？

水運も利用しただろう



尼子西遺跡の東山道



犬上郡

甲良里前子

長屋王邸宅出土木簡の不思議

通常、木簡には「○○国」と明記される

この木簡であれば「近江国」と書かれるはず

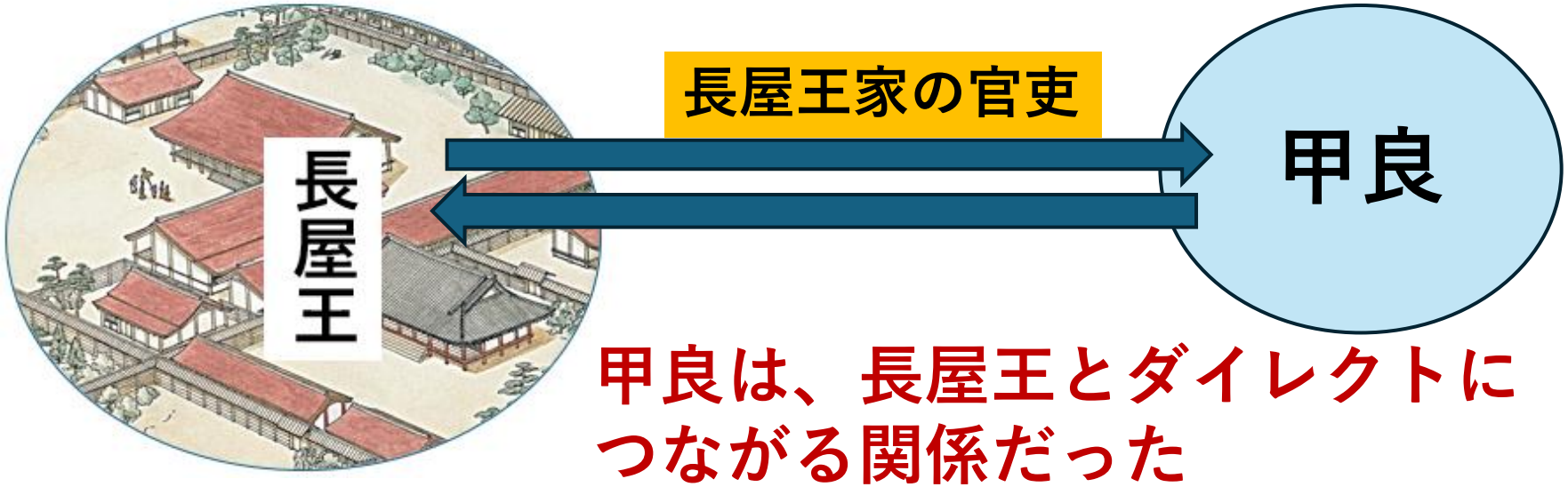
しかし、国名を省いて略記した木簡が多数出てくる

なぜ国名を書かないのか？

考古学者の森公章氏の分析

甲良の里は全て長屋王の封戸（私的な領地）であり、長屋王が直接経営していた。だから、『犬上郡甲良』とさえ書いてあればそれで十分だった。

甲良は長屋王が直接経営する「封戸」



甲良は、長屋王とダイレクトにつながる関係だった

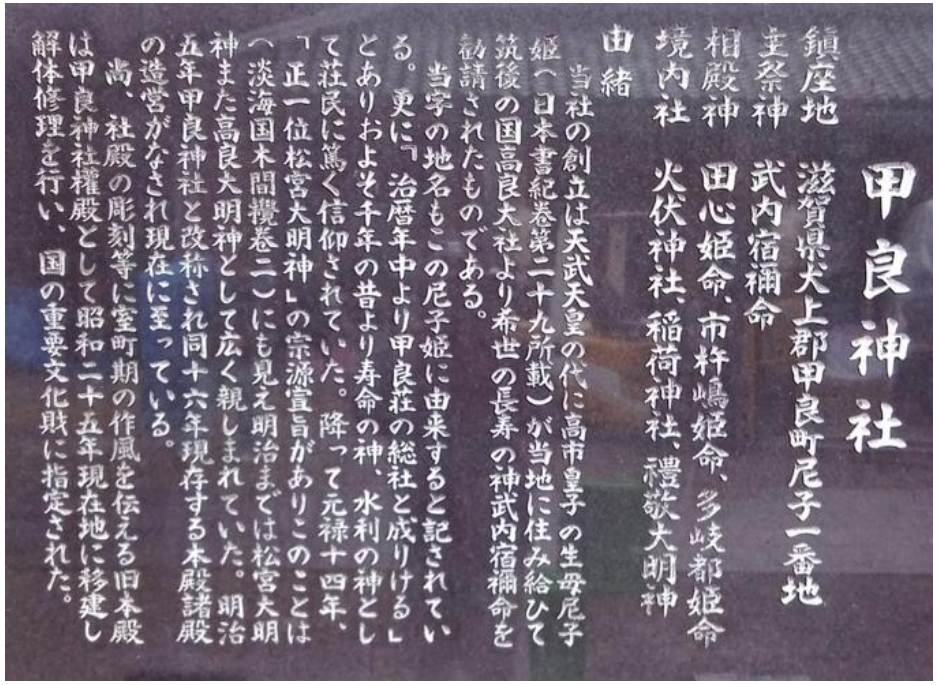
Q:それはなぜ？

ここからは私たちの推測です

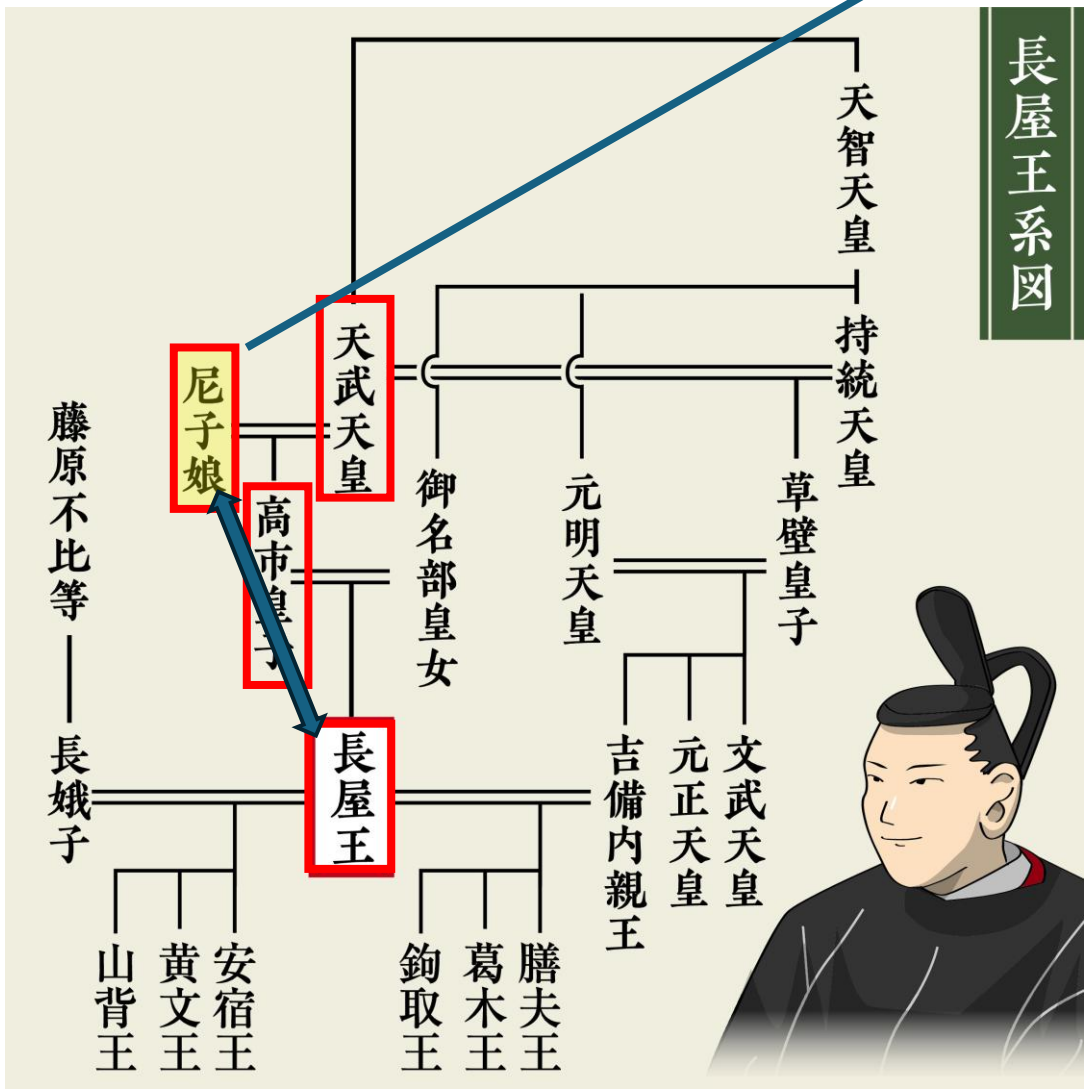
長屋王の祖母は胸形(宗像)尼子娘

むなかた　あまこのいらつめ

尼子娘は甲良町の尼子に住んでいた！

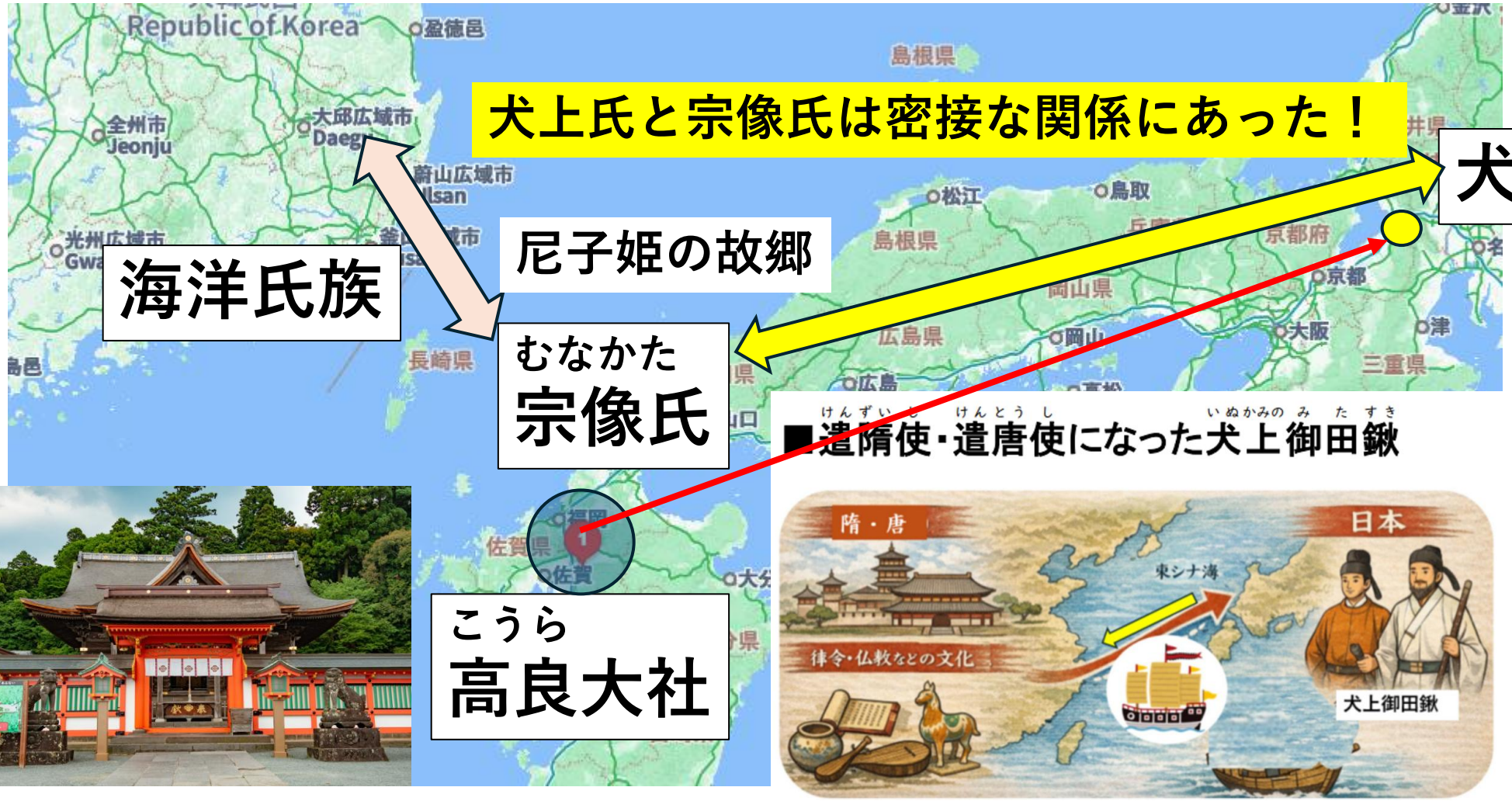


甲良町尼子の
甲良神社由緒碑



「当社の創立は、天武天皇の代に高市皇子の生母尼子姫が当地に住み給ひて筑後の国高良大社より希世の長寿の神武内宿禰命を勧請されたものである。当字の地名もこの尼子姫に由来する」

Q:なぜ尼子娘が甲良にいたの？







昭和58年10月　またすごい遺跡が発見されました



朝日新聞

「犬上民」一族のものか

甲良で古代屋敷跡発掘　整然と20棟の柱穴

中日新聞

長畑遺跡（甲良町）では豪族の屋敷跡

犬上氏の居宅？

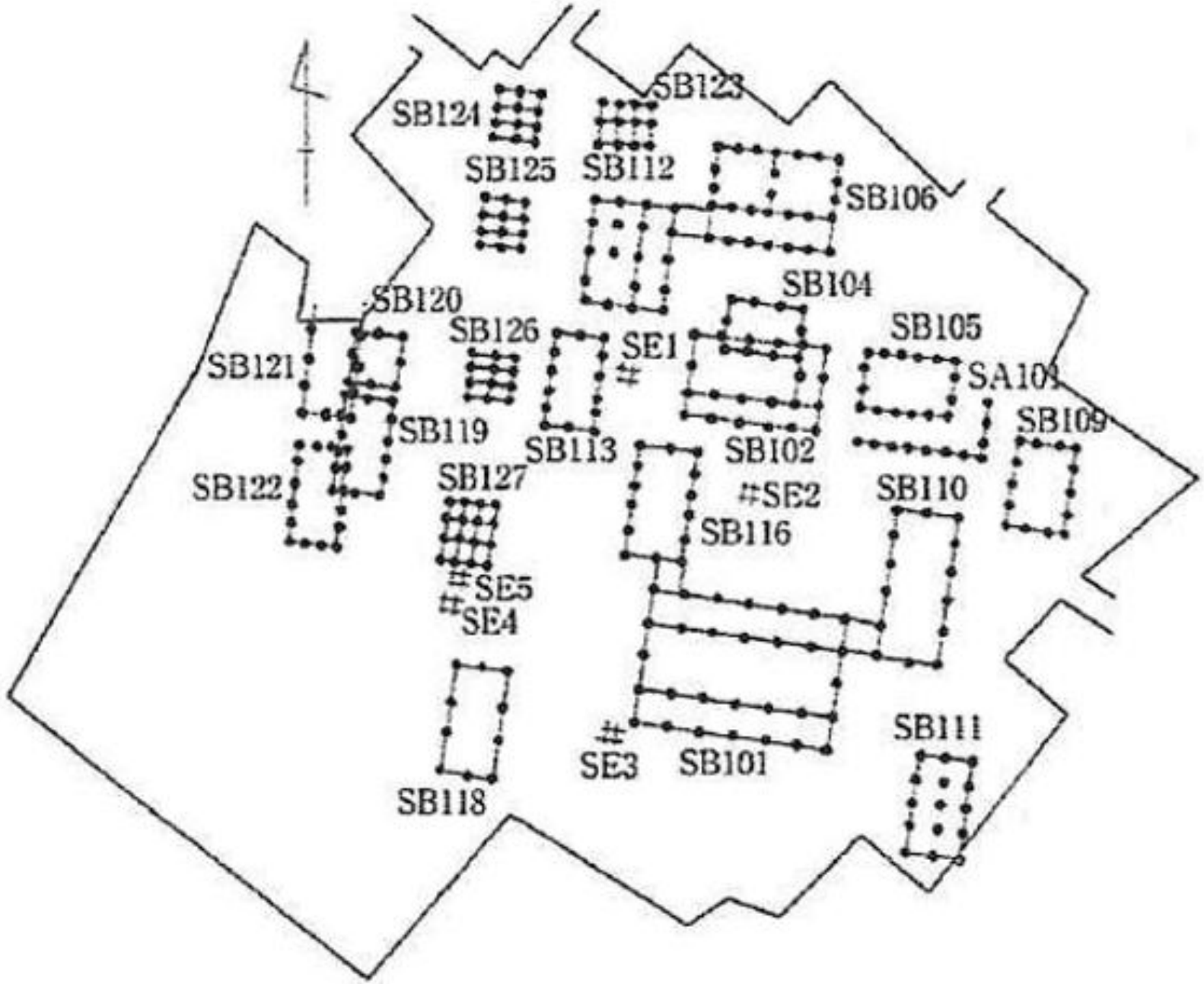
掘っ立て柱建物や井戸

読売新聞

犬上氏の邸宅跡出土　甲良

奈良、平安時代の24棟

遺跡図

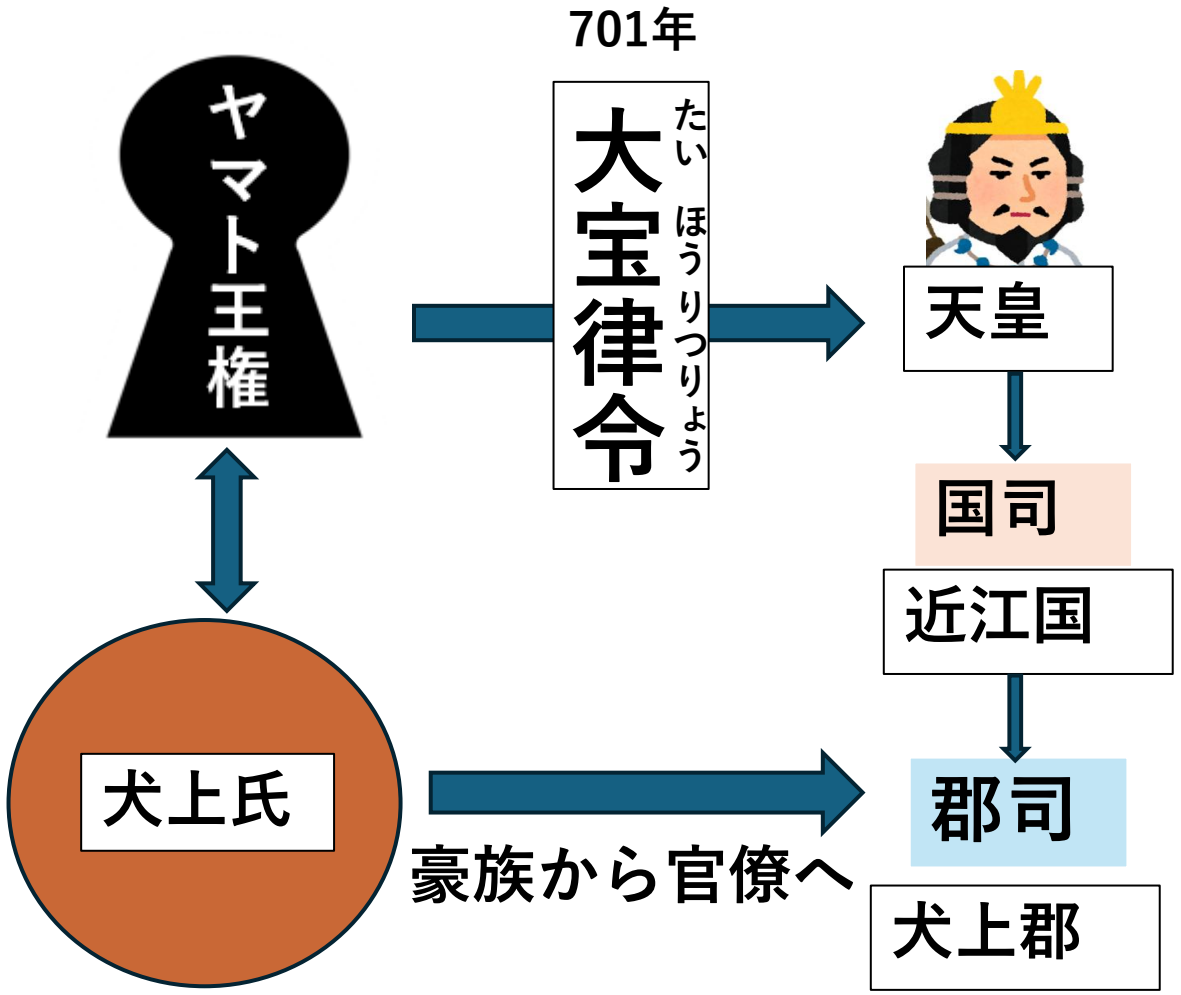

SB124
SB123
SB125
SB112
SB106
SB104
SB120
SB126
SE1
SB105
SB121
SA101
SB119
SB113
SB102
SB109
SB122
SB127
#SE2
SB110
SB116
#SE5
#SE4
SB111
#SE3
SB101
SB118

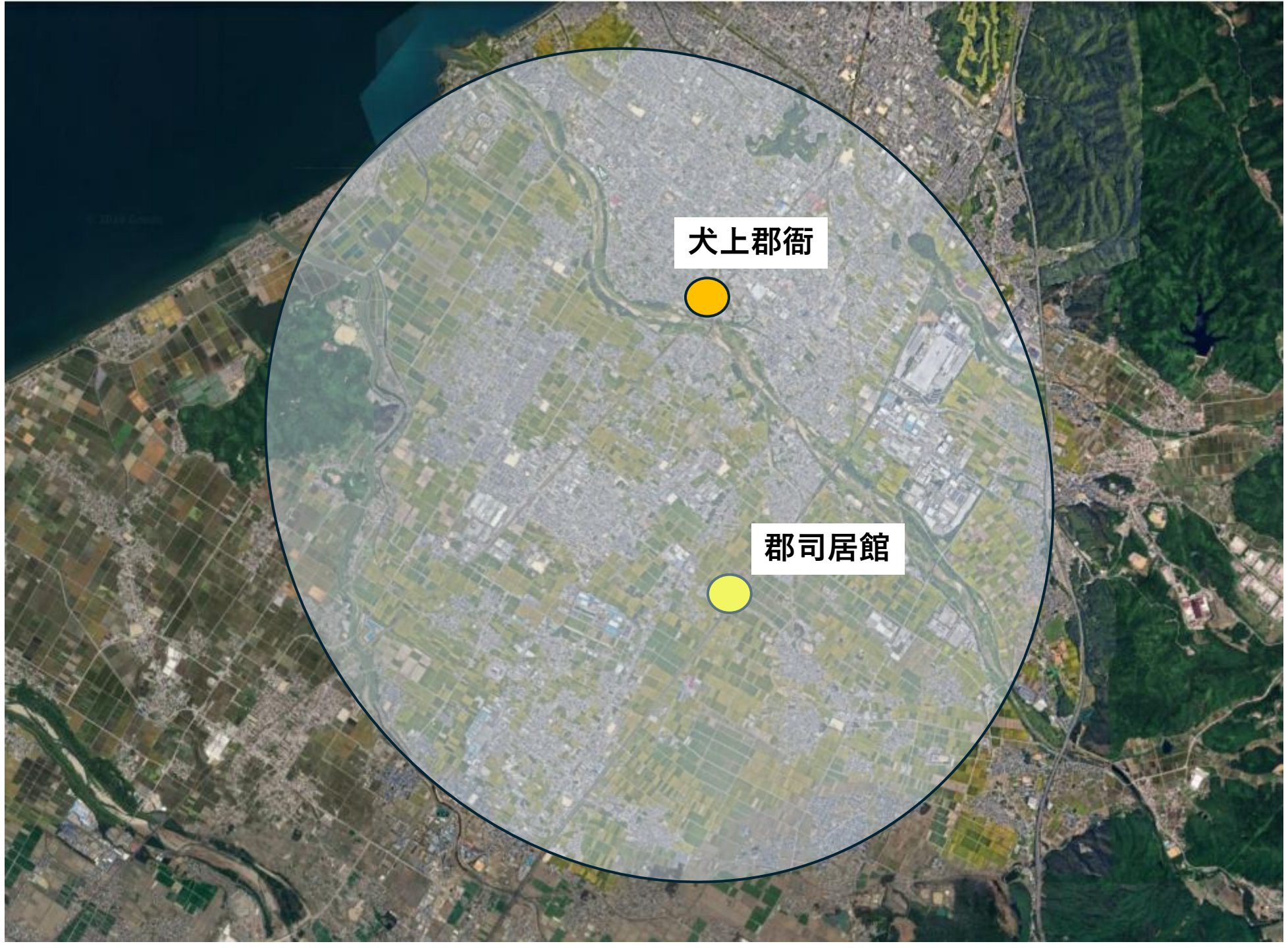
ＡＩによる復元イメージ図



彦根市史

建物の構造や位置から、地方行政の官衙的機能を有し、国司などの役人を迎える施設であったことも推定される。居住者は８世紀後半頃の犬上郡に生活の本拠をおいて、政治的・行政的に一定の権力を行使できる役職に任用されていた豪族であったといえよう





古代豪族犬上氏は、犬上郡司として、
引き続き犬上郡一帯を統治したと考えられる

最後にもう一つ……　（下之郷に伝わる昔話）

～昔々、下之郷には「寶蓮院」というたいそう立派なお寺がありました。
ところが、そのご本尊を織田信長が安土に持って行ってしまいました。
仏様は下之郷が恋しくて、いくら向きを変えても朝になると下之郷の
方を向いておられるのでした～

下之郷の桂城神社社伝

～昔「寶蓮院」という勅願所があった～

謎の古代寺院

寶蓮院

この寺も犬上氏と関係があるのではないか……？

安土　浄厳院（織田信長建立）



旧勢力・佐々木六角氏の菩提寺であった
「慈恩寺」の跡地に信長が建てた。
六角氏を追放し、その象徴だった場所を
自らの手でまったく新しい浄土宗の寺院
として塗り替えた



下之郷　寶蓮院の阿弥陀如来

浄厳院　阿弥陀如来

阿弥陀如来台座裏に記されている墨書

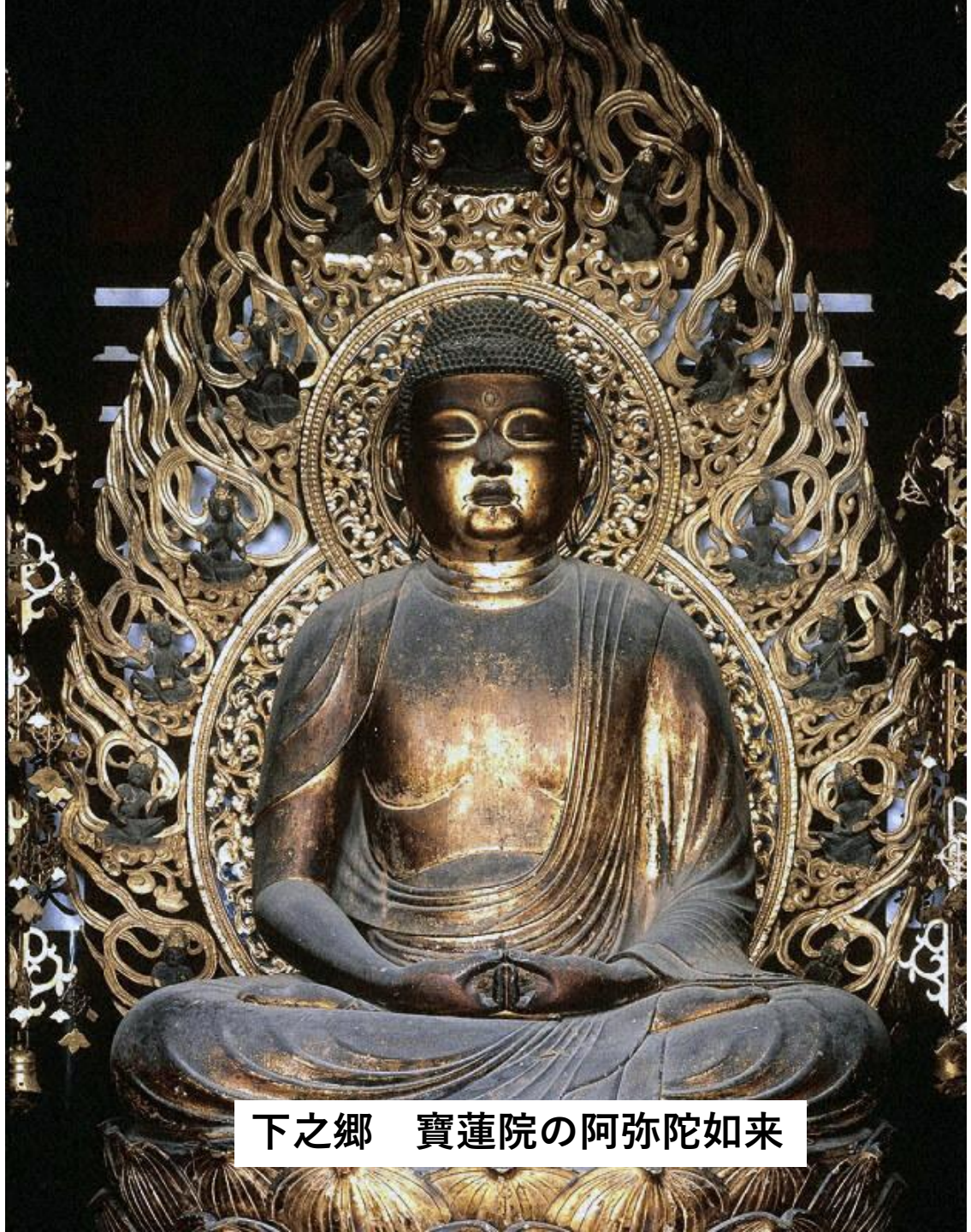
江州犬上郡古寺二階堂本尊也。
今度織田上総介信長公、当寺御建立之刻、為本尊被遷座奉
納者也。天正六年（１５７８年）戊寅六月吉日

甲良番匠伝

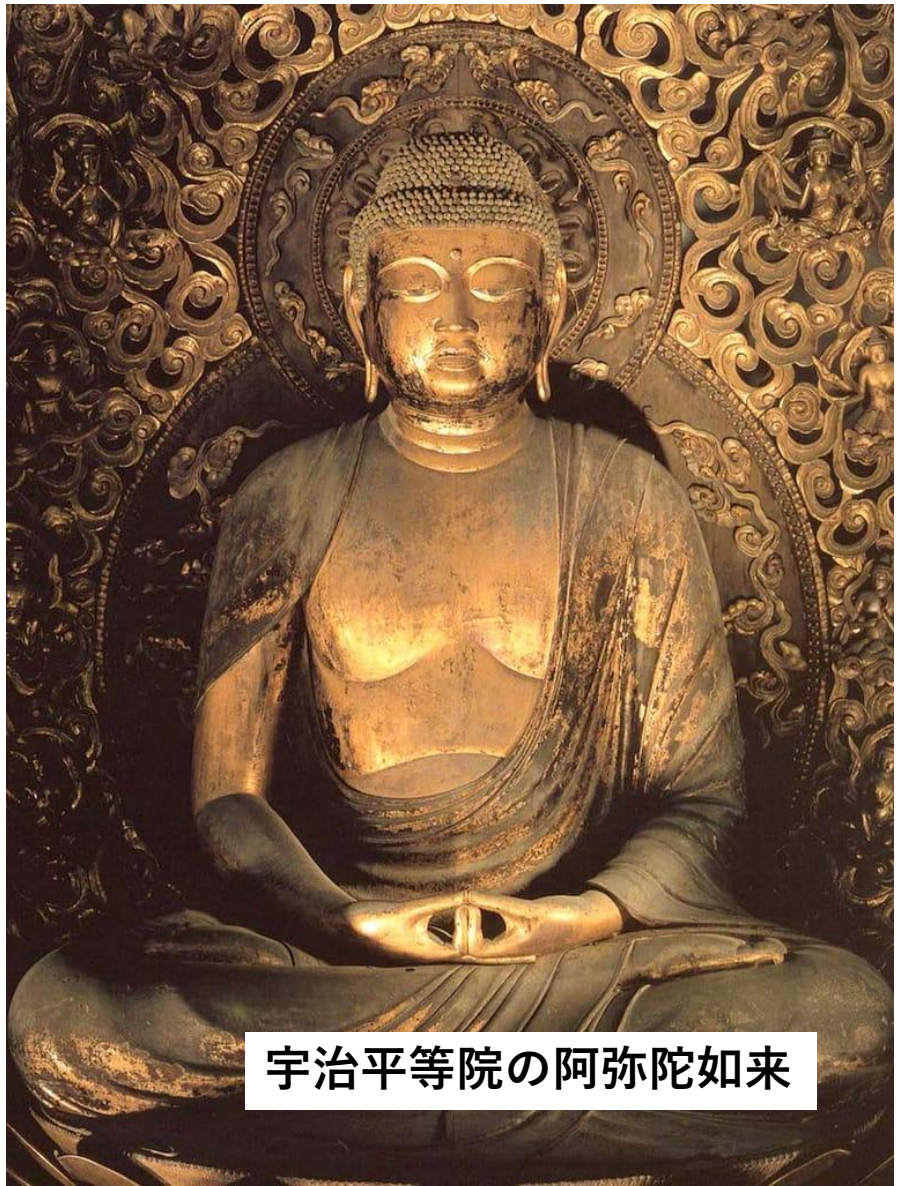
恵心僧都(平安中期の天台宗の僧)が一期の願いとして三体の丈六の仏像を作らせた。

宇治の平等院の阿弥陀如来、開光寺の釈迦如来、

もう一つが甲良の庄の阿弥陀如来である



下之郷　寶蓮院の阿弥陀如来

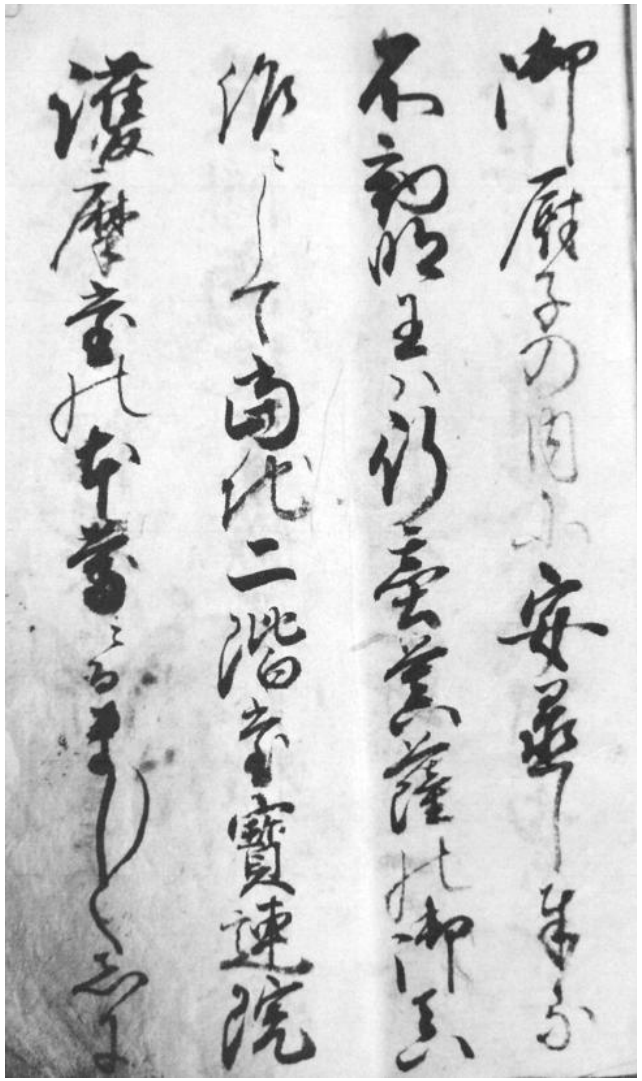


宇治平等院の阿弥陀如来

寶蓮院には護摩堂もあり、不動明王が祀られていた



不動明王(非公開のため類似画像)



不動明王由緒書

御厨子の内に安置し奉る
不動明王は行基菩薩の御真
作にして當地二階堂寶蓮院
護摩堂の本尊にてましましに

この不動明王も
国宝級！

Q:　宝蓮院って下之郷のどこに建っていたの？

残念ながら現在、寶蓮院の痕跡は全く残っていません。明治8年、下之郷の9割が全焼するという大火事で、過去の記録も全て焼失してしまいました。


下之郷遺跡・法養寺遺跡

―犬上郡甲良町下之郷・法養寺所在―

平成２年３月

滋賀県教育委員会

財団法人滋賀県文化財保護協会

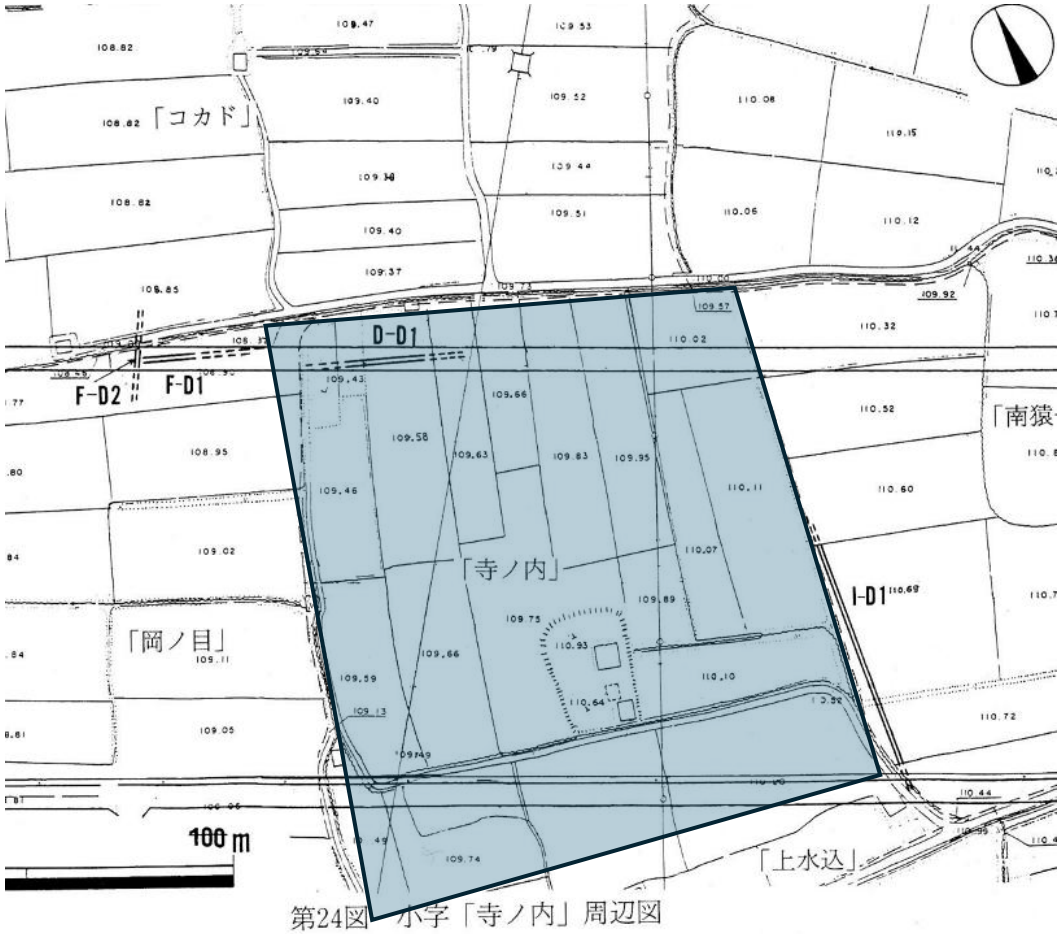
しかし、平成2年の「下之郷・法養寺遺跡」調査報告書の中に、その手がかりとなる記述がありました。

下之郷　小字名

寺ノ内

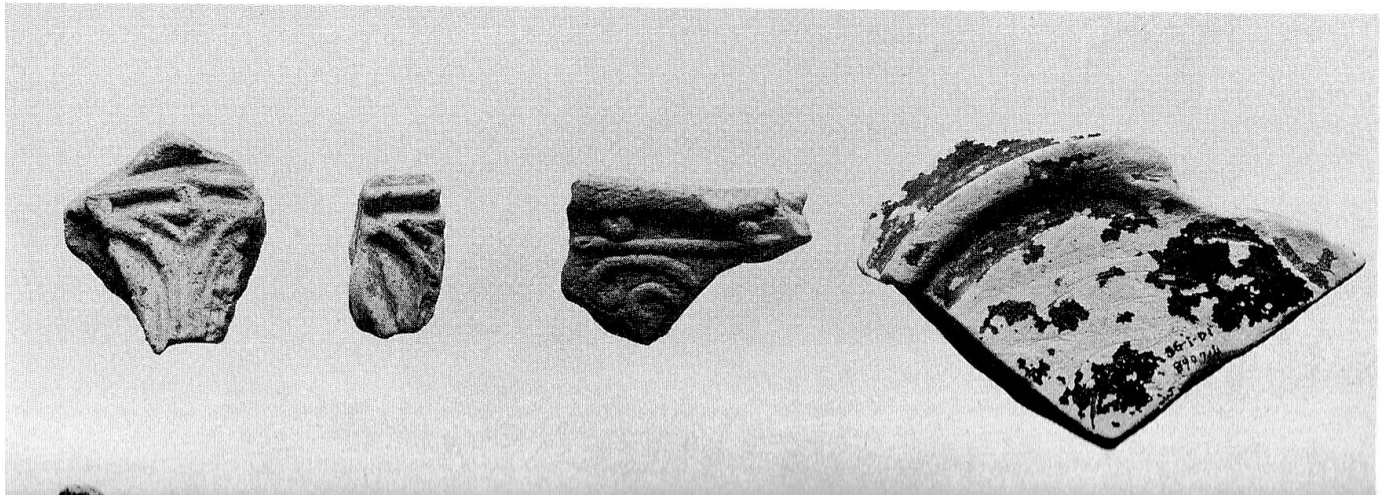


小角
北猿子
岡ノ内
寺ノ内
南猿子
尼子
下水込
上水込
堂地
リク
アマキビ
神ノ木
中溝
下中ノ町
上中ノ町
西小麦尻
東小麦尻
奥小路
舞台
北五反地
北西ノ辻
大道
市場
二階堂
在士
イヲド
西ノ辻
北烏堂
南市場
烏堂
中小路
下イノ町
中イノ町
上イノ町
西烏堂
東烏堂
高座
宮前
下蓬
ヒエビ
墓ノ町
北金堂
北寺側
上蓬
松ノ木
北瓦毛溝
西浦
城
橋詰
一丁三反
金堂
南瓦毛溝
鹿垣
南寺側
新川
大定権
堀之内
定番
四反地
西竹ノ尻
竹ノ尻
窪竹ノ尻
西樋掛
川白
金堂口
堀端
樋掛
南竹ノ尻
金堂水
穴蔵
三反長
弓地
経蔵
矢弓田
西古地番
木戸
東古地番
北礼田
四反長
豊郷町
五反地
西蔵寺
東蔵寺
森ノ口
法養寺
大町
中礼田
下地田
長海
桂城
下蔵寺
下中道
下窪
南礼田
榎林
上中道
大久保
窪
込田



第24図　小字「寺ノ内」周辺図

寺ノ内



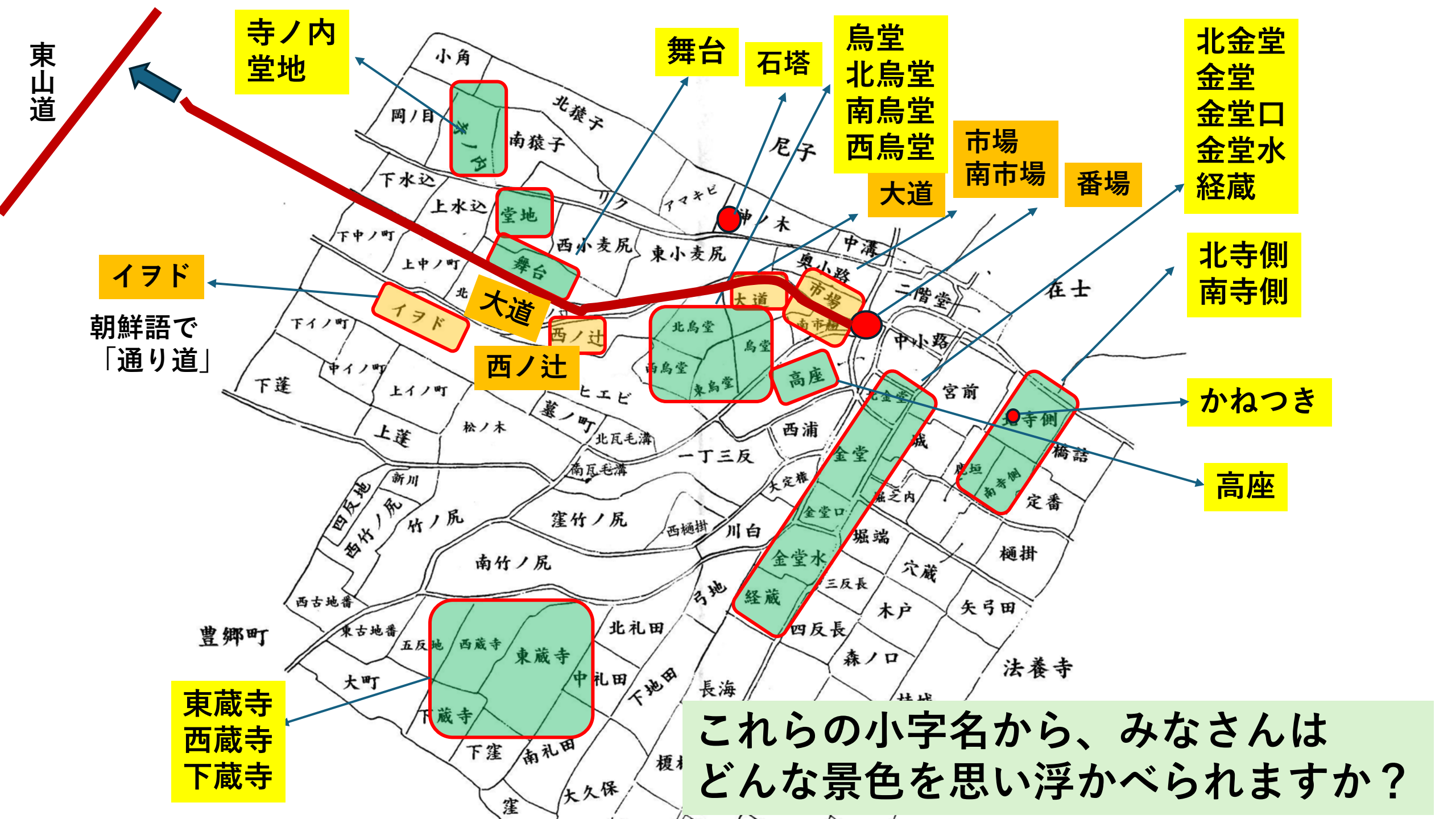
溝から出土した瓦などから寺院かそれに類する施設を周辺に想定しうる。

溝中の土器を見ても奈良時代中葉以降、
平安時代中頃までの遺物を含んでおり、
瓦も奈良時代の所産である。

犬上川左岸扇状地の開発の拠点となった寺院あるいはそれに類する公的施設の存在を考えておいて良さそうである。

「寺ノ内」だけでなく、下之郷の小字名には寺院を想起させる名前がたくさんあります

そこで、古地図に残された「小字名」と地域の伝承から「寶蓮院」の痕跡を探ってみました。



これらの小字名から、みなさんは
どんな景色を思い浮かべられますか？

ＡＩによる復元イメージ図



密教に関するお堂か？

だきにてん
茶枳尼天尊像
下之郷に伝来

不動明王

金堂とは、日本の仏教寺院において
「本尊を安置する、お寺の中心となる建物」





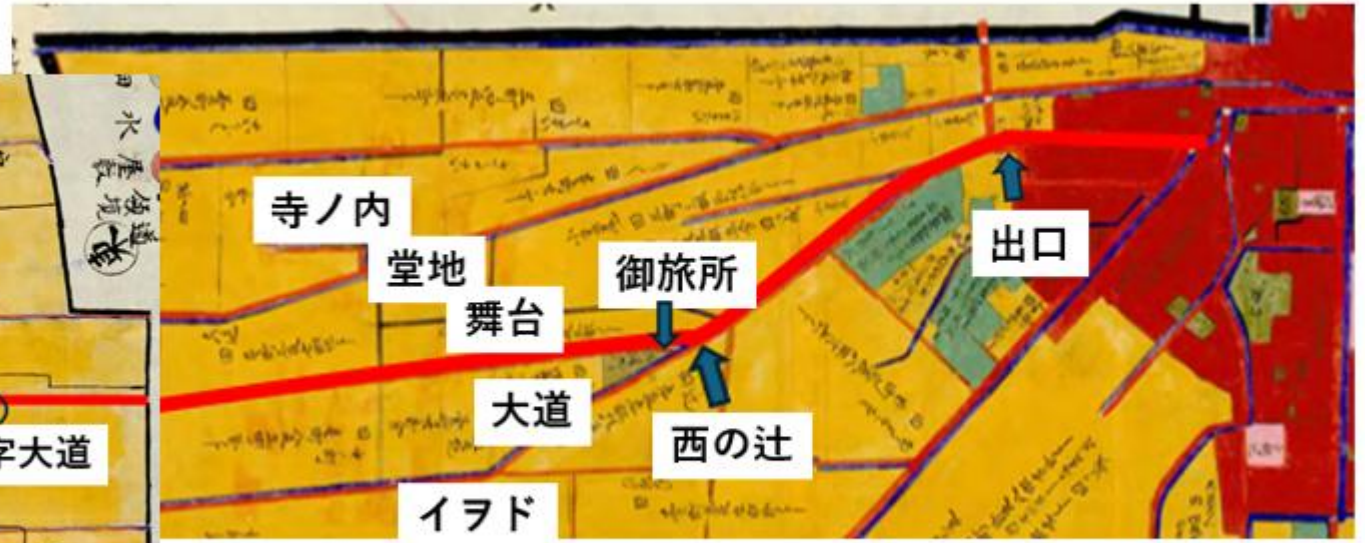
日本での荼枳尼天

平安時代に密教とともに伝来し、特に 真言宗 や 天台宗 で信仰されました。



中山道（東山道）







寶蓮院(郡司犬上氏の氏寺)
平安時代後期

寶蓮院建立の過程
（上野の仮説）

7世紀半ば扇状地開発のための開拓村ができる

開発の拠点となる寺院がつくられる

統治する郡司犬上氏の居館が作られる

犬上氏の氏寺がつくられる

寶蓮院

門前集落として賑わう

寶蓮院や市場の記憶は、桂城神社の祭礼を担う「金堂講」・「市場講」という名前に今もなお残されています。





残された遺物や記録、伝承等から郷土の昔をあれこれ
探ってみるのはとても楽しい知的な遊びです

ご清聴ありがとうございました